

2018年度事業報告の概要

はじめに

2018年度は、「ピアレビューの質の向上と実施」等の4つの項目を重点活動（ 1 ）と位置づけ、JANSIの総力を挙げて取り組むとともに、経営に影響を及ぼす可能性のある「検査制度の見直しを初めとする外部環境の変化の把握」、「10年戦略を事業者とともに構築・実現する」等の2018年度活動方針（ 2 ）にも適切に対応出来た。（10年戦略は、2019年3月、理事会で決定。P.3-P.4参照）

1：2018年度重点活動

- (1)ピアレビュー(PR)の質の向上と実施
- (2)発電所総合評価の定着
- (3)事業者に対する支援活動の充実
（再稼働支援、PR等で抽出された課題対応）
- (4)事業者の自主保安活動の牽引（CAP、PI、CM、RM）

2：2018年度活動方針

- (1)検査制度の見直しを初めとする外部環境の変化の把握
検査制度見直し、ATENA（原子力エネルギー協議会）設立
WANO-TC（東京センター）との協働）
- (2)戦略目標（KGI）及びパフォーマンス指標（KPI）の本格導入、業務評価への展開
- (3)10年戦略を事業者とともに構築・実現

(参考) 10年戦略について(1 / 2)

○構築の目的

10年間に亘る環境変化を考慮しつつ、JANSIと産業界が目指すべき姿を設定し、共有する

現行のJANSIの活動と目指す姿の実現に向けた道筋との関係性を明確にし、それらの意義・重要性を組織内で確認し、共有する



国内外の有識者のご意見も参考にしつつ、事業者とJANSIが一体となり検討

○10年戦略の策定 (2019年3月、JANSI理事会にて決定)

- 2019年度～2028年度を対象期間とし、本戦略を道標として、将来の目指すべき姿の実現に向けて、事業者と一致団結して取り組む。
- 本戦略は長期に亘るので、定期的に活動の有効性、経営環境の変化等を確認・評価し、必要に応じて変更する。

(参考) 10年戦略 主要アクションへの展開(2 / 2)

○目指すべき姿の設定

- 産業界:事業者の自主的安全性向上の取組が定着し、継続的な改善が図られている。
- JANSI:原子力産業界の自主規制組織として、事業者の自主的安全性向上の取組を牽引している。

○目指すべき姿の実現に向けた主要アクション

- 今後10年間に於いて、発電所のパフォーマンスを向上させるための産業界・JANSIの重要成功要因を抽出
- これを実現するための、今後のJANSIの活動の方向性を具体化
- これに関連するアクションを抽出

⇒ **主要アクションの設定**

『JANSI-10年戦略(2019-2028年度)』パンフレット参照

JANSIの概要

- (1) 組織名称：一般社団法人 原子力安全推進協会
(JANSI : Japan Nuclear Safety Institute)
- (2) 社員数 : 129社 (2019年3月末現在)
- (3) 職員規模 : 207名 (2019年3月末現在)
- (4) 内部組織 :
 - 3本部・2室・8部体制
 - 理事及監事
(会長、理事長、理事10名、監事2名)
 - 執行役員
(常務執行役員3名、執行役員9名)

1 . JANSIのミッション

日本の原子力産業界における世界最高水準の安全性の追求(～たゆまぬExcellenceの追求～)を確実なものにするため、原子力事業者の自主的継続的安全性向上活動を牽引する。

2 . ミッション達成のための取組み

- (1) 事業者から独立した自主規制組織として、国内外関係機関とも連携。事業者の安全性向上活動を客観的に評価し、改善策を提言・勧告する。
- (2) 事業者を指導し、牽引できるレベルまで個々人の力量を向上させる。
- (3) 「自主規制実現のためにJANSI及び事業者が目指す姿」を制定し、JANSIと事業者が合同でセルフアセスメントを実施。
- (4) エクセレンスの設定、評価、支援のサイクルを確立し、包括的な原子力安全の向上を牽引する

(1)ピアレビュー(PR)の質の向上と実施

項目	結果（概要）
PRの実施	4発電所（伊方、柏崎刈羽5-7、川内、敦賀）実施、1発電所（泊）次年度以降に延期（地震による影響）
チームリーダー及びレビューアー能力向上	能力向上に向けた教育訓練の実施、能力改善のためのコーチング受入れ、WANO（世界原子力発電事業者協会）PRへの参加
PR体制の充実、WANO-PRとの同等性取得	WANOとの連携、セルフアセスメントの実施と結果評価、組織改編後の各専門分野対応チームを編成、同等性取得審査を申請（3月末）
重点活動の継続	コーチ評価、事業者フィードバック等から総括し、品質の向上のためのステップアップ、WANOとの協業、効果的かつ効率的なピアレビューへの取組が重要となることから、10年戦略検討結果を踏まえた上で、「2019年度重点活動」として継続する。

(2)発電所総合評価の定着

項目	結果（概要）
円滑な本格運用	2017年度評価を実施し、2018年度のJANSI会費に反映すると共に、初の発電所表彰を実施
総合評価の充実	OE-PIへの事業者フィードバック対応、「リーダーシップ研修」の付帯条件について事業者合意を得ると共に、より効果的なインセンティブのための基本計画策定
重点活動の継続	2019年度からピアレビューを取り込んだ総合評価が出来るようになったことから、本件については「重点活動」から日常活動へ見直す。

OE：運転経験

PI：パフォーマンス指標

(3)事業者に対する支援活動の充実

項目	結果（概要）
再稼働支援	大飯発電所3号機・玄海原子力発電所3号機起動時の常駐、柏崎刈羽原子力発電所を含むBWRによる先行プラントへの問合せ及び意見交換の実施支援、支援実績を反映した再稼働ガイドライン(GL)の改訂（5月、12月）
PR等で抽出された課題対応	過年PRや支援活動を通じて得られた発電所の現状からJANSIとして支援を集中する課題（重要課題）の抽出とその支援策を策定（8，10月）
重点活動の継続	上記のPR結果等から導き出した課題に対する支援は重要であることから、本件は「2019年度重点活動」として継続する。

2018年度重点活動の結果（4/4）

(4)事業者の自主保安活動の牽引

項目	結果（概要）
CAP (是正処置プログラム)	CAP作業会を設置（9月）し、CAP活動の共通課題について解決支援（～2月）。米国からCAP専門家を招聘しCAPの運用について講演会・セミナーを開催（11月）。CAPシステムGL制定（2018年3月）
PI (パフォーマンス指標)	共通自主PI検討WG開催（2017年11月～）、共通自主PIガイドライン(GL)を制定（2018年9月）、PIデータの収集・整理等の試運用を開始（10月～）、原子力発電運転協会(INPO)を訪問調査（12月）
CM (コンフィギュレーション管理)	CM-WG開催（2017年10月～2018年9月：CM-WGはその後のフォローアップもあるため新検査制度が本格導入されるまで継続）、CM-GL制定（9月）及び発電所への普及活動（例：GL説明会開催：11月、2019年度の発電所への普及活動計画を検討）
RM (リスクマネジメント)	事業者によるRMセルフレビューへの支援、結果の集約・分析、事業者訪問支援、RMEGへの具体事例の追加（第4版発行：2019年3月）
重点活動の継続	2018年度でガイドライン作りは完了した。2019年度は2020年の新検査制度本格導入の直前であり、現場への展開に対する集中支援モードとなることから、本件は「2019年度重点活動」として継続する。

平成30年度事業計画書の各事業計画に対する活動状況の例

1．安全性向上策の評価と提言・勧告・支援（P．12）

- (1)安全性向上策の評価等
- (2)リスクマネジメント(RM)に関するレビュー体制整備と事業者への支援
- (3)日本版事業者自主安全評価書（JSAR）の作成

2．原子力施設の評価と提言・勧告及び支援（P．13～P．14）

- (1)ピアレビューの充実・強化
- (2)産業界として目指すべき高い水準の提示
- (3)発電所総合評価の実施
- (4)原子力施設運営状況の改善支援
- (5)安全文化アセスメントの実施及び改善
- (6)安全文化醸成活動への支援

3．関連する基盤業務（P．15～P．18）

- (1)事業者の人材育成
- (2) JANSI人材育成の充実・強化
- (3) OE（運転経験）情報の収集・分析・評価・活用
- (4)プラント支援業務
- (5)技術支援業務
- (6)規格・標準の整備・促進

4．海外機関との連携（P．19）

主な活動項目	主な結果（ は重点活動関連）
(1)シビアアクシデント(SA)対策データベース	国内プラントデータの登録 SRS-46（原子力発電所の深層防護の評価）に関する海外調査
(1)原子力発電所のSA対策レビュー	PWRの評価：完了（3基）、再評価完了（2基） BWRの評価：完了（1基）、再評価完了（2基） 実施中（1か所1基）
(1)SA対策個別課題 他	提言1件発出 平成29年度までの提言に関する各社の対応状況を取り纏め報告
(2)セルフレビュー 支援・結果分析	事業者が行ったセルフレビュー結果の分析、意見交換の実施 セルフレビューガイドの改定
(2)RMEGへのエクセレンスの具体事例の追加	RMに関する海外調査（米国、欧州） RMEG改訂（エクセレンスの具体事例取入れ）
(3)JSARガイドラインの更なる充実 (PWR)、整(BWR)	IAEA GS-G(一般安全ガイド)4.1との整合性確認を完了しJSAR-GL及び解説への反映事項を抽出(PWR) 作業を前倒しし設置許可ベースのGL素案まで作成(BWR)

原子力施設の評価と提言・勧告及び支援（1/2）

主な活動項目	主な結果（ は重点活動関連）
(1)ピアレビュー(PR)の実施	4発電所（伊方、柏崎刈羽5-7、川内、敦賀）のPR実施 2発電所（敦賀、川内）のWANO-FUPRをJANSIのチームリーダー（TL）にて実施 WANOのPR及びフォローアップPRにレビューアを派遣
(1)WANOピアレビューとの同等性認定取得	川内PRでセルフアセスメントを実施、同等性取得に向けての要改善事項（AFI）等を抽出し、対応策を検討 2019年3月末、同等性取得に係る申請を行った
(1)チームリーダー（TL）、レビューア能力向上	WANO-PRへの参加、WANO-TL研修、初期訓練及び反復訓練等受講 PRコーチ受入れ
(2)TCP活動	TCP（専門分野毎の発電所等からの問合せ窓口）を通じた専門分野毎の発電所等実務者からの問合せへの対応、支援を実施
(2)エクセレンスガイドライン(Ex-GL)	PRで得られた良好事例等を収集し、各分野のEx-GLを改訂 改訂に際して、事業者による確認、事業者への説明会を実施
(3)総合評価システムの円滑な本格運用	発電所総合評価結果をCEOセッションで情報共有（11月） 発電所表彰制度を立上げ、表彰実施
(3)WANO-PI及び運転実績PIのデータ収集等	WANO-PIをDBへ登録 WANO-PIの傾向分析を行い、PRチームへ提供 運転実績PI及び停止中PIデータをDB登録

主な活動項目	主な結果（ は重点活動関連）
(4)SRを窓口としたプラント運営支援活動	SR（連絡代表者）による定期連絡、定期訪問を通じて、発電所等幹部とのコミュニケーションを図り、発電所の支援要望に適切に対応
(4)原子力発電所の再稼働支援	大飯3号機及び玄海3号機について起動時に常駐し支援実施 後続プラントについて先行プラントとの意見交換、体感研修、先行体験の講演といった支援実施
(4)支援計画の充実・強化	過年PRの結果等から発電所重要課題の抽出と支援策を策定し、電力経営層、評価支援会議/同発電所部会に報告すると共に支援活動を開始
(4)発電所PIによるモニタリング・支援	共通自主PI検討WGにより共通自主PI-GLを制定(9月) 下期より共通自主PIの収集・整理等の試運用を開始 最新の情報を入手のためINPO訪問調査(12月)
(5)現場診断と安全文化アンケートの実施	第6回アンケートの実施（特別会員へ報告書提出） 現場診断(5発電所+1プラントメーカー)、現場診断結果のCEO報告等を実施
(6)安全キャラバン	安全キャラバンの実施（5事業所）
(6)各種セミナーの実施	各種セミナー等の開催（安全文化セミナー、体験型セミナー、アセスメント研修、発電所管理者研修）

関連する基盤業務（1/4）

主な活動項目	主な結果
(1)リーダーシップ研修プログラムの開発・推進	各種研修（社長研修、発電所長研修、炉主任研修、当直課長研修、当直副長研修、発電所管理者研修、危機管理研修）、図上演習、上級管理者研修（2月に試行）を実施 SAT実務研修：e-ラーニングの開発、体系的教育訓練（SAT）キャラバン、SAT実務研修の実施
(1)リーダーシップ研修の今後の展開検討	1F風化防止ビデオ：（総括編）一般会員への貸与・実績フォロー（教訓編）製作・会員用HPに公開 関係者インタビュー：1F事故対応経験者へのインタビューを実施
(1)運転責任者判定業務の充実	運転責任者判定を実施 運転責任者合格証保有者とのコミュニケーションを実施 運転員教育訓練プログラム認証、原子炉制御運転員認定方法について検討
(1)保全技量認定業務の実施	指定試験組織の定期審査、更新審査を実施 保全技量認定業務を実施
(1)人材育成の充実・強化に向けた取組み	教育訓練GLの検討、制定 (PWR) 保修編：着手 (BWR) 放射線管理編及び化学管理編：制定、保修編：着手

関連する基盤業務（2/4）

主な活動項目	主な結果
(2)優秀な人材確保	要員計画に基づき人材検討協議会を通じた人材要請を行い、人材を確保
(2)ナレッジマネジメント（KM）の展開	標準的な引継ぎ資料のテンプレートを作成、引継ぎ時の技術伝承の仕組みを確立し、運用を開始 KM全体計画の検討・取り纏め（KM-WG開催、講演会の開催、社外良好事例調査含む）
(3)OE情報を収集・分析し、重要技術課題について文書を発行	OE情報処理状況：国内100%、海外100% 重要度文書：2件 注意喚起文書：2件
(3)事業者のOE情報への取組みを支援、対応状況をフォロー	運転情報検討会を開催 運転情報検討会で「原子力施設情報公開ライブラリー（NUCIA）運用開始以前の水平展開要否が判断されていない事象等」の抽出事例を紹介
(3)特定テーマレビュー（重要度文書レビュー）の継続	重要度文書の対応状況について特定テーマレビューとして実施（浜岡・女川：完了、東海・玄海：現地レビュー実施）

関連する基盤業務（3/4）

主な活動項目	主な結果（ は重点活動関連）
(3)海外OE情報処理活動の一元化	PB統合化システムの構築に向け、システム構成の確認、基本設計レビュー、新システム設置等行い、2019年度から試運用開始
(4)QMS(品質マネジメントシステム)活動の支援	CAP作業会を開催し、CAP運用に係る課題を検討 品質保証に係る米国調査、米国からCAP担当者を招聘し講演会/意見交換会の開催 QA(品質保証)新任管理者研修(8月)、安全文化アセスメント研修(12月)、監査員研修(1月)を実施
(4)ヒューマンファクター(HF)分析	ヒューマンファクター検討会を開催 ヒューマンパフォーマンス改善ハンドブックの見直し・制定、講習会開催、安全啓発ポスター（4件）発行
(4)RCA(根本原因分析)活動の推進支援	RCA推進検討会、RCA事例検討会を開催 RCA研修（導入研修(7月)、スキルアップ研修前半(9月)/後半(11月)）、RCA講演会を開催
【 運転支援G 】 (5)支援活動の計画・実施 他	TCP連絡会議で社内チームパフォーマンス向上訓練(運転員の行動観察)の実施（長時間厳しい状況が続く訓練）を合意 下期から、発電部管理職との直接対話、チームパフォーマンス向上訓練実施による自己評価、Ex-GLの説明等を開始

関連する基盤業務（4/4）

主な活動項目	主な結果（ は重点活動関連 ）
【保全G】 (5)電力共通保全技術基盤の整備、拡充 他	保全技術基盤のデータ拡充と基盤会議体活動の活性化を推進。各種会議体の開催 保全技術基盤活用説明会を開催
【技術G】 (5)CM関連 他	CMガイドラインを制定(9月)し、事業者説明会を開催(11月) 事業者ニーズを踏まえた発電所訪問計画を検討
【放射線・化学G】 (5)現場に直結した課題について調査検討 他	調査結果を事業者へ提供（眼の水晶体関連の動向、福島甲状腺がんの実態調査結果 他）
【火災防護G】 (5)火災防護セミナー、各種委員会の情報発信、共有 他	火災防護セミナーを開催(9月、2月) 火災防護展開WGで新検査制度への対応について打合せを実施(多数回)
【防災・緊急時G】 (5)原子力防災訓練の実効性向上支援 他	各種会議体（原子力防災訓練検討委員会A会議、原子力防災訓練検討委員会B会議）及び原子力防災訓練発表会(1回)の開催 防災訓練アシスタンスビジットの実施 緊急時対応に係るセミナーと講演会の開催(1月)
【プラント安全規格G】 【プラント設備規格G】 【バックエンド規格G】 (6)各種活動	JANSI民間規格整備 ロードマップ(5カ年計画)の策定及び同計画に基づく活動の実施 原子力学会、機械学会、電気協会の委員会等に委員として参加

海外機関との連携（1/1）

主な活動項目	主な結果
国際戦略の策定と推進	WANO理事会、INPOカンファレンス、日米CNOリーダーシップ会議等への参加を通じて海外事業者幹部と意見交換を実施
国際アドバイザーリー委員会	委員会を、2回（5月、3月）開催し、JANSI業務運営課題や10年戦略について意見交換を実施 11月に、各委員を個別に訪問し、事業者重要課題への対応や10年戦略について意見交換を実施
技術評価グループ	安全性向上部（6～7月）及びシステム基盤部（3月）より技術評価委員に意見要請
WANO、INPOとの連携	<p>【WANOとの連携推進】</p> <p>MSM（会員支援活動）等専門家派遣、PRへのレビューアの派遣・受け入れ、リーダーシップ研修の共催等連携を強化</p> <p>【INPOとの連携継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日米CNO会議を米国で開催（7月） ・INPO CEO会議へ参加（11月） ・INPOとの2019年4月以降の新たな協力協定の締結（2月）